

和地ひとみレポート No.14

ご存知でしたか？

東大和市中で毎年発行する『生の戦争体験』の文集を

■ 8月は平和月間

…ご存知の方も多いと思いますが、東大和市は平成2年10月1日付で『東大和市平和都市宣言』を行いました。また、8月1日から8月31日までの1か月間を平和月間と位置づけ、平和の大切さを再認識する機会として、いくつかのイベントが催されています。

…平和事業の一環としてこのたび発行された全33Pの『平成23年度平和文集～恒久平和を願って～いま、語り継ぎたいこと』には市内在住の戦争体験者の方16名からの体験記、また、小中学生3名の作文が掲載されています。

…今回の文集の戦争体験の文章を寄せてくださった方の年齢は70歳～95歳の方です。文集は原文に忠実に記載されている（編集はされていない）ので、旧仮名づかいでの表現もあり、また、プロの作家が書いた文章ではないので、素朴な感はありますが、逆に、真実味があるものとなっています。

東大和市平和都市宣言（平成2年10月1日宣言）

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。



■ 市民センターや公民館で無料配布

…この文集は市の企画財政部企画課が発行、印刷は総務部文書課印刷室で行い、希望者には市役所の企画課、市民センター、公民館で無料配布されています。そのほか、希望者には郵送（送料自己負担）にも対応。また、企画課には平成15年度版から保管されており、閲覧することも可能です。

■ 平和の大切さを考えるきっかけにするなら…

…毎年8月15日前後には、戦争、平和の大切さを再確認するための記事、テレビ番組、イベントなどがありますが、今年は3月の大震災もあり、自然災害と戦争との違いはあれども、いつも以上に『普通の生活の大切さ』を感じている方も多いと思います。

…平和月間に毎年作成している平和文集をもう少し上手に活用できないのか、また、PRできないのか。先に述べたように、この文集のタイトル『語り継ぎたい』のなら市報やホームページでの情報提供、無料配布だけではなく、もっと子供たちの手に届きやすい方法を考えても良いのではないかと思います。戦争体験者の声を残すことも目的だと思いますが、作成するからには、活かす方法にも工夫の余地はあります。行政も様々な取り組みをしておりますが、お金と時間を使って行うことの伝え方、活用の仕方にはもったいなさを感じることも多々あります。この文集も作ることだけが目的になっているのではないと思います。

…子供たちの夏休みももうすぐ終わりますが、平和について話すきっかけとして文集を手にとられてはいかがでしょうか。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケット「つるかめランド」等を経営）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然と不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会い発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、東大和市議会議員1年生として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 【ホムペ】 <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0003 東大和市狭山2-864-3-202